

～安全で**安心な給食**※を提供するために～

給食を提供している
皆さまへ

放射能検査の ご案内！



※ 東京電力福島第一原子力発電所の事故後、被災地は、日々復興・再生に向けて進んでいます。今では、生産者を始め関係者のご努力により、食品中の放射性物質は減っており、安全な食品が流通していますが、放射性物質に対して不安を感じる方もいらっしゃいます。

ゲルマニウム半導体検出器による放射性測定
(精密核種検査)

食品等	検査項目	検出限界	必要試料量
一般食品	ヨウ素-131 セシウム-134 セシウム-137	5~10Bq/Kg未 満	500g~2Kg
飲料水	セシウム-134 セシウム-137	1Bq/Kg未満	1~3L
その他	ヨウ素-131 セシウム-134 セシウム-137	依頼者指定 10Bq/Kg~	~2Kg

給食(一食分の給食)に含まれる放射性物質の量を調べることもできます(陰膳方式)。半減期が長い「検食」の有効活用にもお勧めです。

●検査料金、お見積りなどお気軽にお問い合わせください。

一般社団法人埼玉県食品衛生協会検査センターは
「厳正」「迅速」がモットーの厚生労働大臣登録検査機関です。

お問合せ 一般社団法人埼玉県食品衛生協会検査センター
☎ 048-649-5331 FAX 048-647-3360

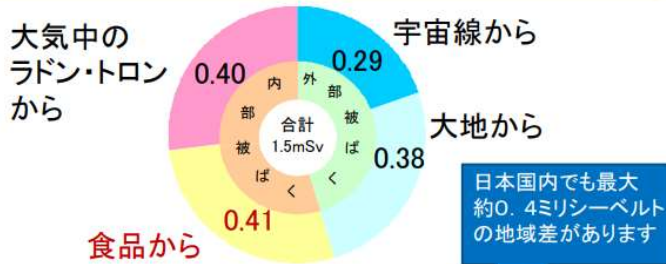
〒330-0855 さいたま市大宮区上小町1450番地



• 自然放射線は食品からも受けています

もともとある自然放射線から受ける線量

1人あたりの年間線量(日本人平均)は、約1.5ミリシーベルト



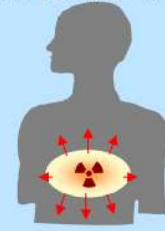
出典:放射線医学総合研究所 2007

日本国内でも最大約0.4ミリシーベルトの地域差があります

- 自然放射線の量は地質により異なるため、地域差がある
- 食品にはカリウム40などが含まれている

食品安全委員会

内部被ばく (食品摂取・吸入)

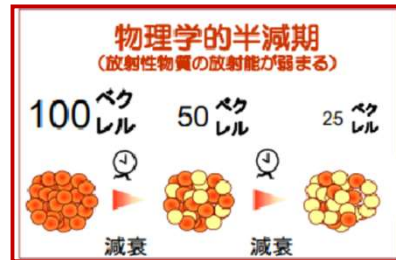


被ばく線量の単位:シーベルト
=放射能の強さ(ベクレル)×実効線量係数

摂取後50年間(子供は70歳まで)に受ける積算の線量(預託線量)

• 放射性セシウムの半減期

放射性物質の種類	半減期
セシウム137	30年
セシウム134	2.1年



物理学的半減期の例
 ・セシウム134は2.1年
 ・セシウム137は30年
 ・ヨウ素131は8日

• 食品中の放射性物質にはどんなルールがあるの?

日本で流通している食品には、含まれる放射性物質の量がこの数字(基準値)より少ないものしか売ってはいけないというルールがあります。この数字(基準値)は、特定の食品を食べ続けたときにも安全なように、どの性別・年齢層でも、国際的にも安全と考えられているレベル(食品から受ける追加の放射線量が年間1ミリシーベルト以下)となるように決められています(消費者庁ホームページ「放射性物質」より)。

• 放射性セシウムの基準値

食品群	基準値 (ベクレル/Kg)
飲料水	10
牛乳	50
乳児用食品	50
一般食品	100

• 食品に含まれる放射性物質への不安について

東京電力福島第一原子力発電所の事故後、被災地は、日々復興・再生に向けて進んでいます。今では、生産者を始め関係者のご努力により、食品中の放射性物質は減っており、安全な食品が流通していますが、放射性物質に対して不安を感じる方もいらっしゃいます。